

# WEBオープン キャンパス に ようこそ

人文学科



# 大正大学文学部人文学科

- 大正大学は「智慧と慈悲の実践」を建学の理念とする伝統のある大学です。
- 人文学科は、この理念のもとに、学問の基礎となる探究のスキルを身につけ、研究テーマをみつける力を養い、問題を洞察し、新たな見解を導き出す柔軟な思考力をはぐくむことを目標に、日々の学びを展開しています。
- 伝統によって培われた豊かな学びの環境で、あなたの新たな可能性を見つけてください。

# 人文学科**WEB**オープンキャンパスの アジェンダ

人文学科について

哲学・宗教文化コースについて

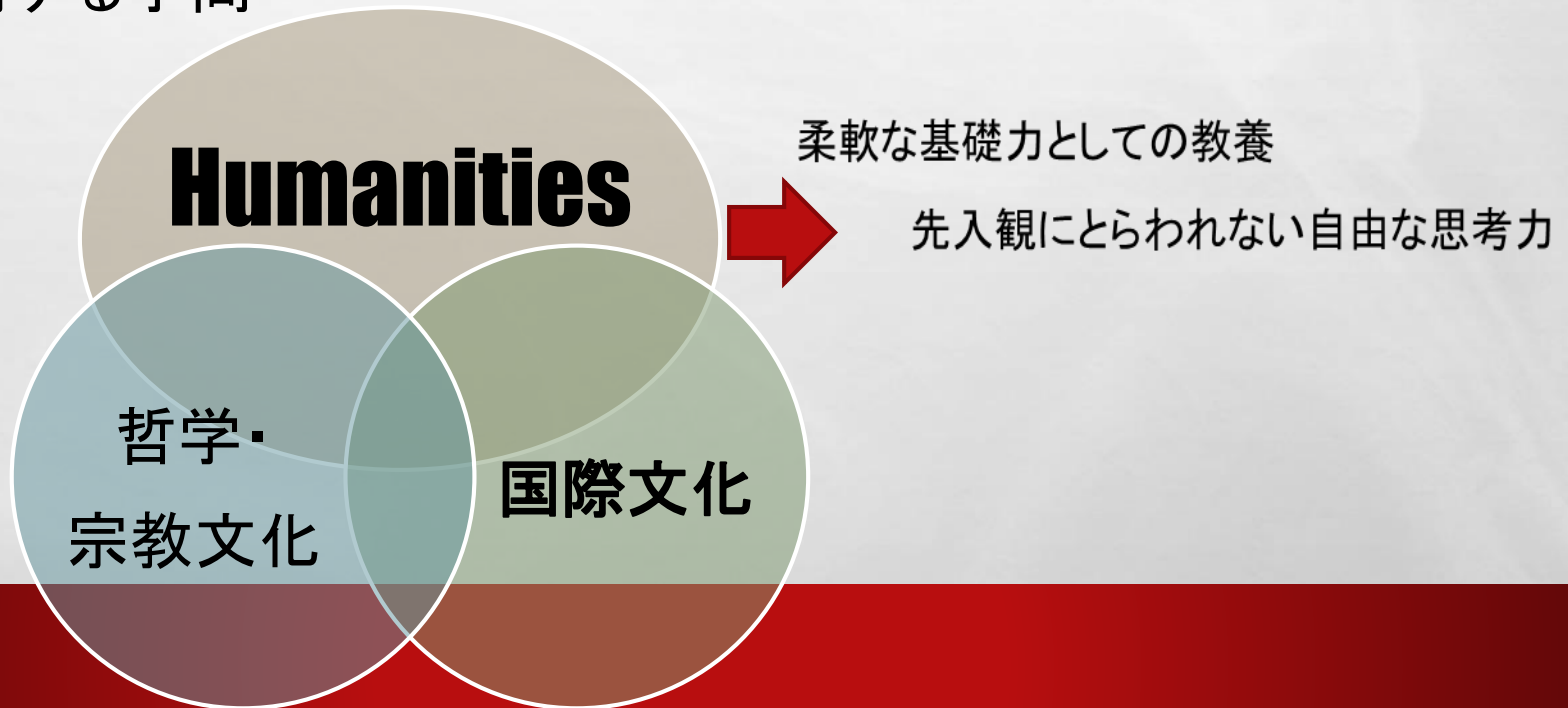
国際文化コースについて

# 人文学科 について



# 人文学とは？

- 人文学はLIBERAL ARTS、そしてHUMANITIES
- 人文学＝言語、文学、哲学、宗教など、広く人間と文化に関する学問



# 人文学科が目指す力

---

教養を身につけ、柔軟な思考力を養い、価値の多様性を理解し、新たな時代の潮流にも対応することのできる判断力と洞察力を培う

---

他者の意見や考えを理解したうえで、自分の考えを構築し、それを論理的に伝える力を培う

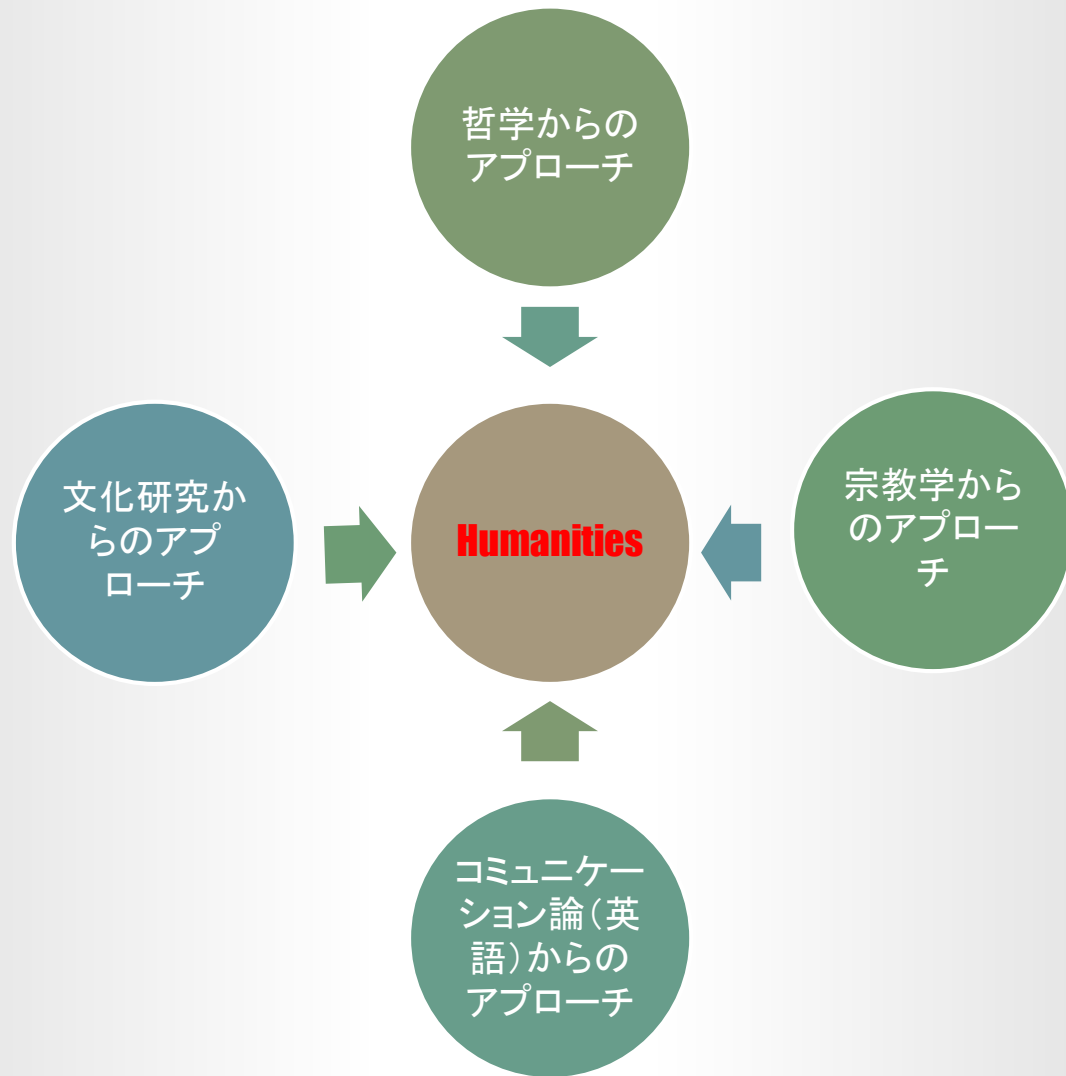
---

豊かな知識と鋭敏な洞察に基づく共感を抱き、社会に対する責任を果たそうとする意志とその実践力を培う

---



# 人文学科



# 人文学科 哲学・宗教文化コース 国際文化コース

- 身近な題材を用いて、哲学、宗教学、文化研究、コミュニケーション論、英語学などの学問的アプローチ(**DISCIPLINE**)を柔軟に活用し、二つのコースを効果的に融合させたカリキュラムを組んでいます。



# 哲学・宗教 文化コース について



# 哲学・宗教文化コースの 教育目標

「人間とは何か」「生きるとは何か」

「善悪とは何か」「幸せとは何か」といった、

自分と世界に関わる根本的な問題に

取り組み、思考力・判断力を鍛える

# カリキュラムの特徴①

- 「西洋哲学」「東洋哲学」「宗教文化」が柱です。
- 哲学・宗教文化の両方を広く学ぶことも、どちらかに集中して深く学ぶこともできます。
- 「哲学」では、有名な哲学者の思想を学ぶだけでなく、現代の私たちが直面する問題を哲学的に考えます。「宗教文化」では、主要な宗教の教えを学ぶだけでなく、私たちの文化や生活と宗教の関わりを学びます。

考え方の基本＋異文化理解

自分の内面と世の中の両方に目を向ける

## カリキュラムの特徴②

- ディスカッション、発表、パソコンを授業に少しずつ取り込み、無理なくコミュニケーション力、主体性、ITスキルなども身につけることができます。



社会人に必要な諸能力を  
身につけることを意識した  
＝就職にも対応したカリキュラム

# 主な授業 1年次

- 基礎ゼミナール I

哲学・宗教文化コースへのいざないとなる授業。身近な話題、気になるニュース、誰でも一度は考えたことがある深刻な問題などを、グループごとに自由に選び、調べ、考える。それらの問題が、哲学的には、どう捉えられるのか、またどういった思想的背景をもつのかを理解していく。

# 主な授業 1年次

## ●基礎ゼミナールⅡ

基礎ゼミⅠの続編となる授業。宗教的なテーマ・現象の中から調べてみたい課題を見つけ、それについて調べ、まとめ、プレゼンテーションを行う。また、質疑応答の有効なやり方を学び、コミュニケーション力を高める。発表したテーマが、宗教学的には、どう捉えられるのか、こういった社会・文化的背景をもつのか理解を深める。



# 主な授業 1年次

## ●哲学の歴史 I

西洋哲学の歴史の基礎を理解する。

ヘレニズム(ギリシャ)、ヘブライズム(ユダヤ・キリスト教)、ケルト・ゲルマン文化の3つの流れの葛藤と調停の過程として西洋哲学史をとらえる。

映画『ダヴィンチ・コード』やゴシック芸術など、西洋文化にも、哲学が現れていることを知る。



# 主な授業 1年次

## ●現代倫理学 I

戦後の思想を、10年ごとに整理し、その時代、その時代にはやった音楽、社会的事件、若者が抱えた問題などに結びつけて、実感をもって理解していく。

たとえば1960年代のサルトル(実存主義の哲学)とロック・ミュージック(ビートルズ)、学生たちのラブ・アンド・ピース運動、校内暴力問題などの関係や流れを学ぶ。



# 主な授業 1年次

## ●宗教文化論

「宗教」と聞くと、勧誘やテロ・戦争をイメージし、怖いと感じる人が多いかもしれないが、この授業では、アニメ、マンガ、映画、文学、ファンタジーといった身近な文化に、宗教が大いに影響を与えてきたことを学びます。

宗教文化には、仏教やキリスト教などの教団宗教だけでなく、神話・伝説、妖怪・幽霊、各地の民俗文化、まじないや占いも含まれることを知り、学びの広さを実感してもらいます。

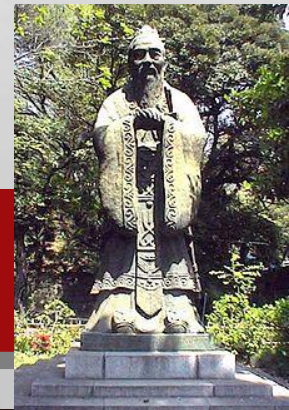


# 主な授業 1年次

## 中国の哲学

### 中国哲学に学ぶ

日本の文化の理解には、中国の儒教・仏教・道教の思想の理解が不可欠です。命は連続しています。ここに「孝」の思想が生まれます。孝・悌を仁とした孔子から、諸子百家、儒教、仏教、道教と中国哲学は展開していきました。人として私たちはどのように生きたらいいのでしょうか。この問いを考えてみたいと思います。



# 主な授業 2年次

## ●文化人類学

世界の宗教文化の多様性を理解する(「宗教文化論」)の授業は欧米・現代日本が中心。「文化人類学」の授業は途上国や日本の民間信仰(村の伝統文化)が中心)。

世界の様々な民族文化(儀礼・慣習・制度)を学び、人間の文化に共通する要素を考えます。祭、タブー、霊能、神話、葬式等について、世界各地の現象を広く学び、その意味を理解することを目指します。



# 主な授業 2～4年次

- 2年次＝1年次の学習内容をさらに深めます  
希望者はフィールドワーク(学外での調査・実習)に参加
- 3年次＝「専門ゼミナール」で、卒業論文につながる専門的な研究に取り組みます
- 4年次＝卒業論文を中心に、4年間の学びの総まとめ

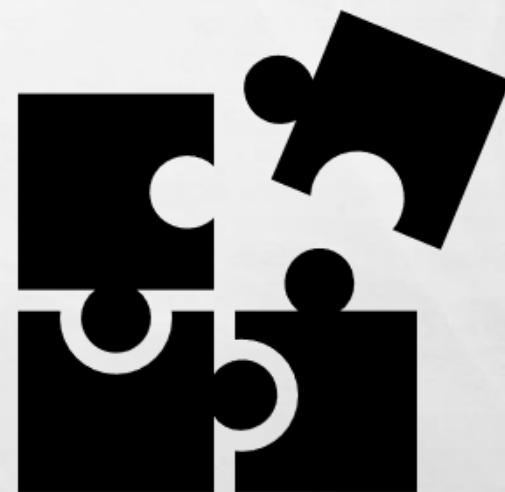
いずれも少人数クラスで細やかな指導

# 学びの広がり

- 2011年度から始まった「宗教文化士」資格を目指すことができます。
- 哲学と宗教学は大正大学の中でも最も伝統のある学問領域の一つです。哲学・宗教文化を専門とする教員はコース専属教員のほか、他コース、他学科にも複数おり、大学院、OBOG組織も整っています。充実したサポートを提供しています。



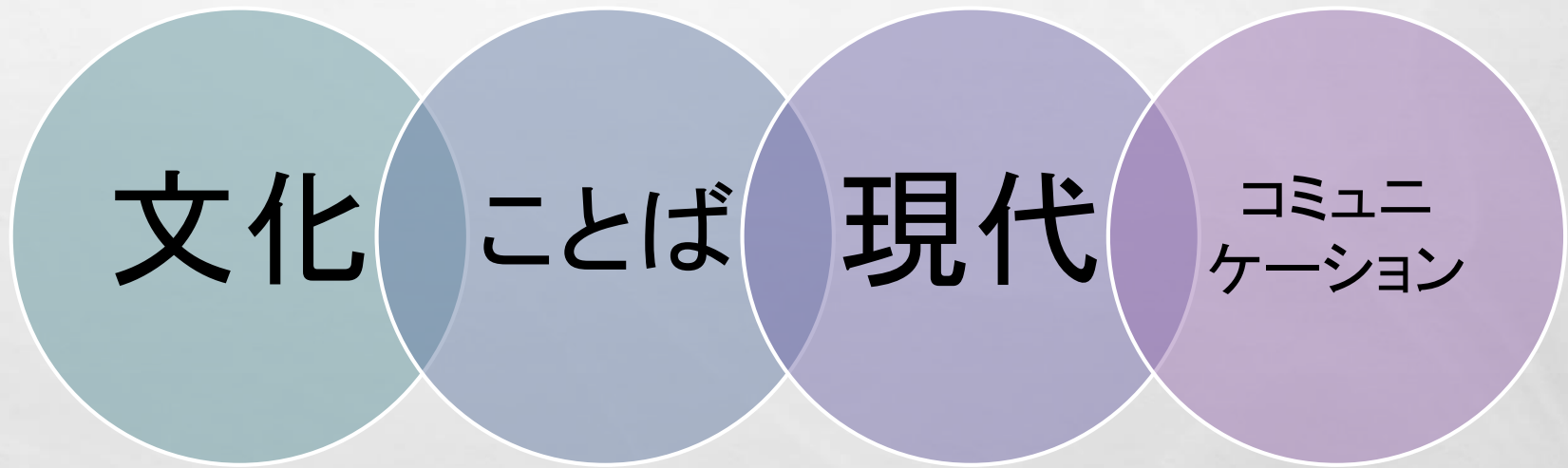
# 国際文化 コースに ついて



# 国際文化コースの教育目標

- カルチュラル・スタディーズをはじめ、多様な文化研究の方法を用いて文化を多角的に考察することができる
- 新たな研究の視点を取り入れ、伝統的な学問研究の方法も活用しながら、応用力のある研究手法をみずから導き出すことができる
- たしかな英語力を養い、国際的な視点で情報を分析し、意見を発信することができる

# 国際文化コースのキーワード



# 国際文化における文化研究

- 文化の研究といっても、その対象は広い
- 何でも研究テーマにできる、でも具体的な研究対象を自分で決めるためには、「テーマを選ぶ力、決める力、修正し、やりなおす力」が必要
- そのためには、トレーニングが必要

# 文化研究のトレーニング

- 1年生、2年生のあいだに、研究が成り立つための基本的な知識と手法を身につけます
- そのために、トレーニングの場として、4つの領域を用意しています



# 基礎的な力を養うための領域

一担当者の専門領域から初学者にも取り組みやすい題材を選び、丁寧に段階を追って学びます

ジェンダー研究  
物語の比較研究  
ファンタジー  
アニメ、漫画  
ディズニー

言語と文化  
戦争と文化  
科学と文化

東南アジア  
民族音楽  
ポピュラー音楽  
文化人類学

異文化交流論  
人の移動と文化  
文化交流と宗教

# 多彩な授業

—そのほかにも、さまざまな視点を獲得するために、多彩なテーマで授業を展開

たとえば

- モダンアート： アートの読解力を養い、教養を深める
- アニメーション： 20世紀の新しいメディアと私たちの想像力について考察する
- ことば・言語学： AI時代におけるコミュニケーションの意味を考え、ことばの成り立ちについて考察する

# 国際文化における英語

- 実践的な英語運用力に重点をおいたカリキュラムで、英語の力を高める
- 「読み、書き、聞き、話す」のオールラウンドな英語力を養う
- 英語を活用した文化研究と、英語の言語学的分析の両方に取り組むことで、豊かなコミュニケーション力を培う

# 英語力をつけるための カリキュラム①

- 1年生から4年生までの段階的な**WORKSHOP**で英語力を総合的に磨く
- 基礎ゼミ(1・2年生)と課題研究ゼミ(3・4年生)で、テーマを探究し、論じる力を養う

# 英語力をつけるための カリキュラム②

- GLOBAL ISSUESやBUSINESS ENGLISHなどの授業で、現代のニーズにあう英語力を培う
- 言語学、英語学、英語音声学、英語圏文学などの授業で、英語に対するアカデミックなアプローチを実践し、また、英語教員資格に必要な知識を高める
- 英語教員免許取得を目指す学生のための教育法の授業で、最新の英語教育メソッドを実践する

# 国際文化コースの授業(1年次)の例①

- WORKSHOP(異文化の理解) I A
- テーマ:ディズニー文化を考える
- ディズニーを素材に、文化研究の方法を具体的に学びます。ディズニーは私たちの身の回りに溢れている。これほど私たちの生活にとけこんだアメリカ文化は他にはないかもしれません。ディズニーの通俗性や商業主義的戦略に批判もありますが、大衆からの圧倒的な支持を受けるディズニー文化の「魅力」とはどのようなものなのでしょう。功罪の両面から、ディズニー文化を多角的に考察します。



# 国際文化コースの授業(1年次)の例②

- WORKSHOP(異文化の理解) I B
- テーマ:様々な価値観を持った人々と共存するために
- 世界各地に暮らす人々の生活、文化はかなり多様であり、その根底には多くの異なる価値観がある。日本もまた同様に、現在は様々な文化的背景をもつ人々が隣り合って暮らしている。違う価値観をもった人々とどのように共存していくべきか。

この授業では「文化とは意味の網の目である」という立場にたち、身近な日常生活の中の「文化」の違いを本質論に陥らずに、差異のあるもの／つくられるものとして知る。

# 国際文化コースの授業(1年次)の例③

- WORKSHOP(異文化の理解) II A
- テーマ: 言語学の知見を踏まえながら、「言葉がわれわれのものの見方や考え方や感じ方を決めるのか？」というテーマを中心に、言葉と人間生活の密接な関係について考える。
- 人間生活にとって「言葉」がいかに重要なものであるか、についての理解を深める。言語学ないし言語人類学において、「言葉がわれわれのものの見方や考え方を決める」という見解がある。言葉について知ることは、自他の文化の理解につながる。

# 国際文化コースの授業(1年次)の例④

- WORKSHOP(異文化の理解) II B
- テーマ: 西欧絵画から近代の成立を見る
- 文化研究を考えたとき、絵画についての研究はその柱の1つである。近代までの西欧絵画【レンブラント、フェルメール付近まで】を題材の中心に据え置いて、絵画に込められたモチーフなどを検討し、その時代の状況と繋げて考えることをトレーニングする。つまりある対象を題材としつつも、文化研究で重要とされる「対象の背後・文脈を考えること」を教員・受講者一緒に考えていく。結果として「西欧近代」の成立を絵画の通じて学ぶようにしていく。

# 国際文化コースの授業(1年次)の例⑤

- WORKSHOP(ENGLISH COMMUNICATION) I A
- テーマ:オールラウンドな英語表現力を身につけるため、プロジェクト型体験学習を行う。グローバル社会の中で多文化の人たちと英語でどのように円滑なコミュニケーションを図ることを目的とし、英語で話したり、書いたりしながら英語運用能力を身につける。

# 国際文化コースの授業(1年次)の例⑥

- 基礎ゼミ(ENGLISH COMMUNICATION) I
- テーマ: 英語で書かれた物語や記事を通じて、社会・文化・言語に関する様々な事象に対して関心をもち、英語の基礎的な運用能力を育む。
- 様々な種類の物語や、国際社会に関わる記事を通じて、英語で内容を的確に把握し、そのテーマについて深く考え、ディスカッションを行いながら、基礎的な英語運用能力を育成することを目的とする。



1年次＝学びのスキルの基礎を培い、知識を広め、学問の手法の基本を身につける



2年次＝情報の収集力とともに、発信力を高め、学問スキルや手法を応用できるようになる



3年次＝1, 2年生で培った力をもとに、さらに高度なコミュニケーション力と論理的思考力を養い、各自の研究テーマを見つける

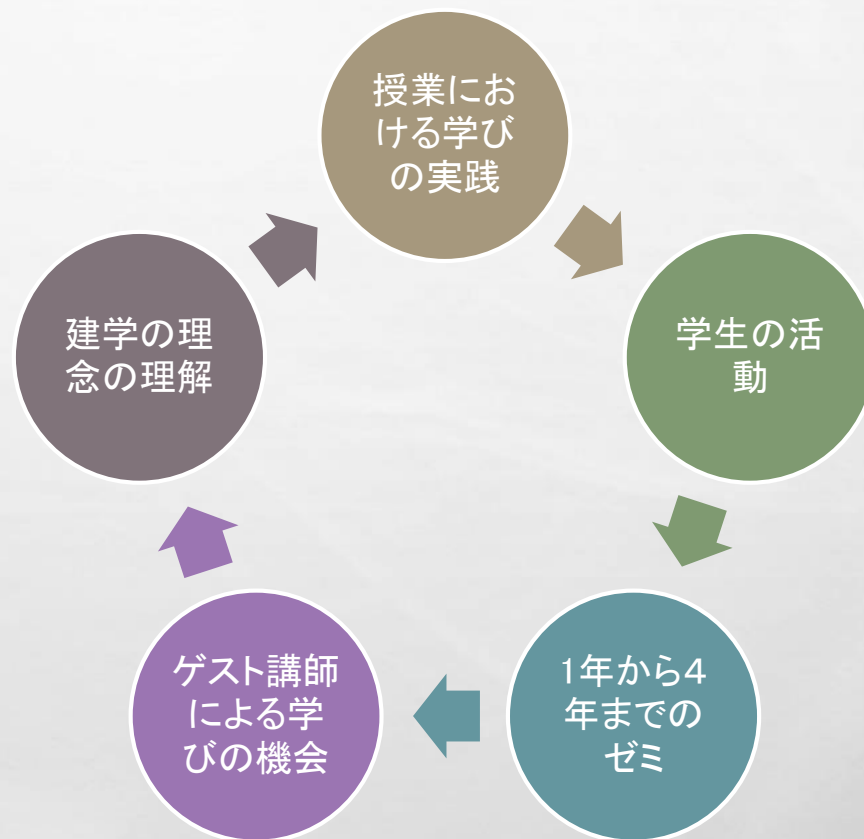


4年次＝実践的な力を磨くとともに、各自のテーマを追求し、卒業論文を完成させる

# 国際文化の学びの展開



# 有機的な実力形成



# 人文学科卒業後の進路の可能性

- 研究を続けるために大学院に進学する
- 大学時代に資格を取得し、中学校・高等学校の教員になる
- 議論をしたり、論文を書いたり、プレゼンテーションをしたりするなかで培った力をもとに、社会で幅広く活躍する

人文学科の利点＝汎用性の高い  
応用力を養う教育

# 人文学科で、ともに学びましょう

